

この8年間で野党共闘は大きな成果をあげてきた
(1人区、小選挙区での議席数)

参議院(1人区)

	選挙区数	野党統一候補 勝利	その選挙区内での得票数(万)		比率	備考
			比例	野党統一候補		
2013年	31	2				
2016年	32	11	746.9	903.3	121%	すべての1人区で統一候補擁立
2019年	32	10	618.2	787.7	127%	
2022年	32	3				野党共闘が後退

衆議院(小選挙区)

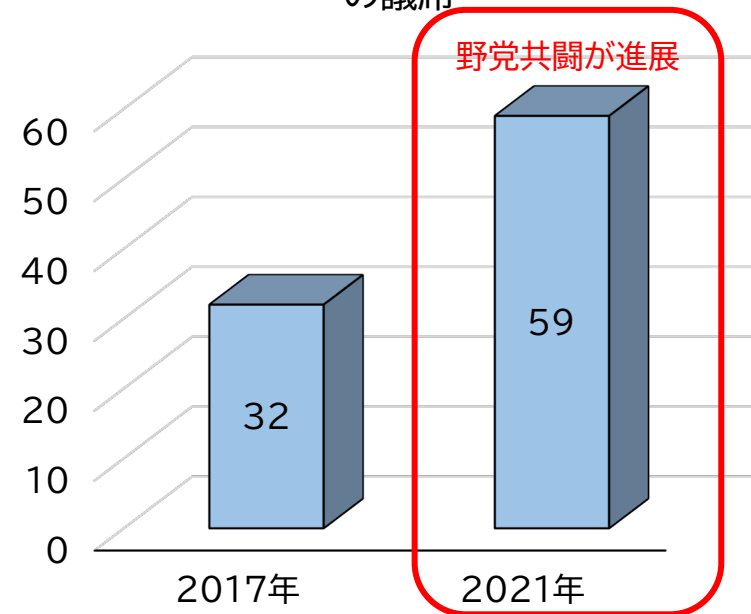
	共産党候補立 てず	野党統一候補 勝利	その選挙区内での得票数(万)		比率	備考
			比例	野党統一候補		
2017年	80	32	530.3	641.9	121%	解散日に民進党が希望の党への合流。共産党が共闘勢力一本化のため67の小選挙区で予定候補をおろした

	候補者一本化	野党統一候補 勝利	その選挙区内での得票数(万)		比率	備考
			比例	野党統一候補		
2021年	207	59	1388.3	1591.4	115%	野党4等が20項目の共通政策。立憲民主党と共産党が政権協力で合意。野党共闘に対する自民、一部メディアからの攻撃強まる

参議院1人区での野党統一候補の議席



衆議院(小選挙区)での野党統一候補の議席



2023年衆参補欠選挙における無党派層の得票率
(共同通信社の出口調査)

1) 参院徳島・高知(投票率32.16%、過去最低)

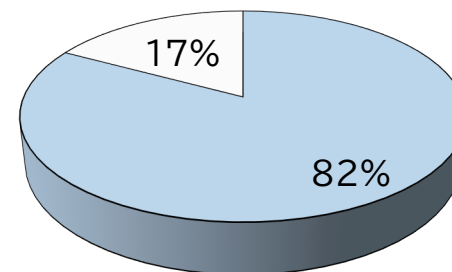
	候補者	得票率	母体
当	広田一	82%	事実上の野党統一候補
	西内健	17%	自民・公明推薦

2) 衆院長崎4区(投票率42.19%、過去最低)

	候補者	得票率	母体
当	末次精一	63%	事実上の野党統一候補
	金子容三	36%	自民・公明推薦

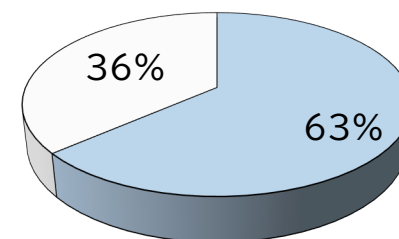
敗れた長崎の末次候補は46,899票(46.5%)であり、本気の共闘で投票率がもう少し高ければ、金子候補(53,915票)を上回って、両補選とも勝利の可能性が高かった

無党派層の得票
(2023年参院徳島・高知)



■事実上の野党統一候補 ■自民・公明推薦

無党派層の得票
(2023年衆院長崎4区)



■事実上の野党統一候補 ■自民・公明推薦